

鳥取県病原微生物検出情報

(令和5年7月検出分；検体採取 令和5年5月～7月)

令和5年8月18日
鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザ、インフルエンザ様疾患の検体2件（検体採取6月中旬～7月中旬）について、検査を行ったところ、2件からインフルエンザA H3型が検出された。（詳細は表1のとおり）

表1 2022/23 シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A(H1N1)pdm09型	A H3型	B victoria	B 山形	
2023	4月3日	西部	1	1	0	0	0	
	6月16日	西部	1	0	1	0	0	
	7月5日	西部	1	0	1	0	0	
病原体定点PCR検査合計 (2023/4/3～現在)			3	1	2	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（8月11日作成）によると、2022/23 シーズンは、AH3型が最も多く報告されている。（図1）

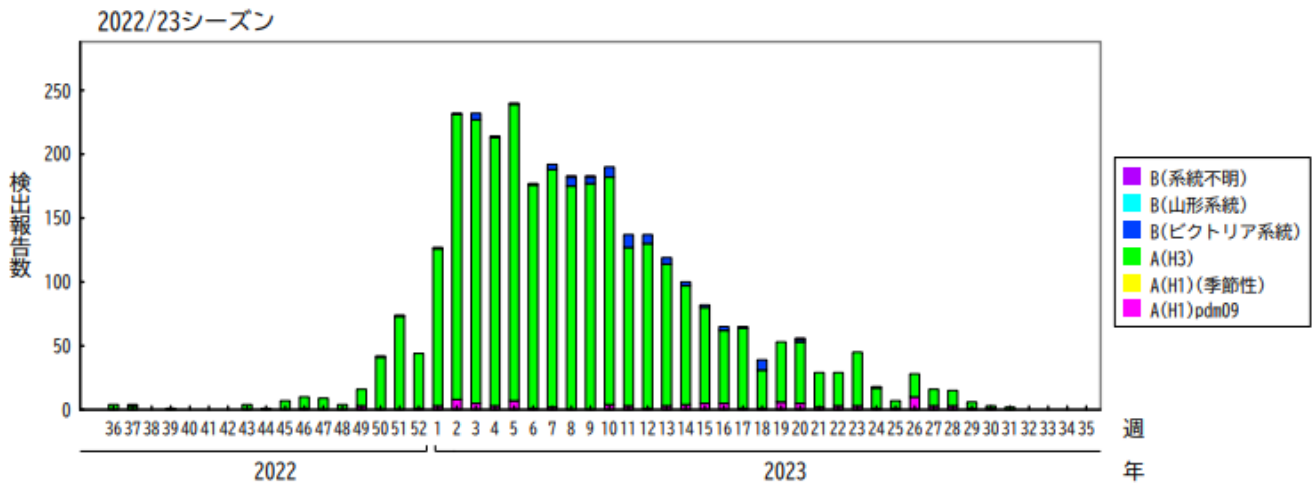


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数（2022/23 シーズン）

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体3件について、検査を行ったところ、アデノウイルス1件、アストロウイルス2件、エンテロウイルス2件が検出された。(詳細は表1のとおり)

検出されたアデノウイルスは2型(C種)であった。アデノウイルスによる胃腸炎は主として31型(A種)、40型、41型(F種)が知られているが、今回検出した2型(C種)は扁桃に持続感染し、小児の糞便中に間欠的に排出されることが知られており、下痢症の病原体としての意義は低いと考えられる。また、検出されたエンテロウイルスは2件ともにコクサッキーB5型であったが、感染性胃腸炎との因果関係は不明である。

表2 感染性胃腸炎検査状況

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A群ロタウイルス	C群ロタウイルス	アデノウイルス	アストロウイルス	エンテロウイルス
230017	6月上旬	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	検出 (Ct値15)	検出 (Ct値31) コクサッキーB5型
230019	6月上旬	(-)	(-)	(-)	(-)	検出 (Ct値20) 2型	(-)	(-)
230020	6月中旬	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	検出 (Ct値16)	検出 (Ct値33) コクサッキーB5型
検出計		0件	0件	0件	0件	1件	2件	2件

(-) : 未検出

※Ct値が20未満、20以上30未満、30以上の3区分で色分け(Ct値が低いものが濃色)をした。

3 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体2件(同一患者からの検体)(検体採取5月下旬(検体番号230015、230016))について、アデノウイルス、エンテロウイルス、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルスの検査を実施したところ、いずれも検出されなかった。

4 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体2件(検体採取6月上旬、6月中旬(検体番号230018、230022))について、エンテロウイルスの検査を実施したところ、1件からコクサッキーB5型が検出され、残り1件からはエンテロウイルスは検出されなかった。